



第29回交流会を開催！！

9月10日～11日に仙台市秋保温泉にて、4年ぶりの交流会を開催しました。各地協から職場報告を受け、工務協の在り方や若手組合員との意見交換を行いました。

交流会は、15時に開会し仙台工務協議長の佐藤さんを座長に選出し、東日本本部武田書記長・仙台地本丸谷書記長・出羽議長より挨拶をいただき、清水事務長より議題の提起を受けて討論にはいりました。二日間を通し、23名が参加しました。

各地協報告



第29回 国労東日本工務協交流会

JRの若手は「来年も職場にいか分らない」の声。飲みに行きましようと思がかかるので、拡大に努めていきたい。(八王子)
3年ぶりに団交を開催し、洗濯機を購入させた。設備技セ発足から1年が経っても、業務内容の仕切りが出来ていない。(横浜)
「将来展望が見えない、低賃金で生活できない」と不安・不満の声。エルダー出向は、主任以上が本体に残った。若手の嫌がる仕事をやらされると聞く。(東京)
組織再編の団交で、会社の不誠実な回答。若手から、「やりがいのある仕事とは思っていない」の声。JRは、事故象を繰り返さないという危機意識が後退している。(水戸)
社員代表者選挙では、2事業所で立候補し、労働組合だからできる主張を行った。投票にあたり問題点を団交で追求。エルダー制度改善を要求していく。(建設)

1日目の討論を終了後、懇親会では、若手の阿部さんの乾杯発声で始まり、自己紹介と近況報告を行い、各地協より持ち寄った地酒を堪能し交流を深めました。

【2日目の討論】

分会は、長野電気分会から運輸区分会が変わった。

Eastiで、軌間の基準値超過で列車抑止。JR本体が現地調査や徐行手配をしなかった事象が発生した。適切な判断ができない状況にある。(長野)

保線のメンテGは、年齢層が低く一人の負担が大きい。モニタリング走行区間で、絶縁不良で短絡、4時間列車を止めた。若年化と共に現場を見る目が不足している。(盛岡)

保線から警備会社にエルダー出向し、警備巡回中に倒れた。

「年休を取らないで欲しい。25分の超勤手当が支払われない。連夜の夜勤が当たり前」の厳しい実態である。(千葉)

都市開発では、草刈り機を扱うが特殊健康診断をやっていない。用地界標の作業で、列車見通し

距離を確保できず仕事を止めさせた。(高崎)

7月、若手を含めた泊の交流会を開催した。未加入の若手から「組合はこりごりだ。」「組合は悪いイメージがある。」と話された。

国労の若手を支え、継続して交流会を開催していく。(仙台)

清掃のエルダー出向に出て3年、元職場に4ヶ月に1回顔を出している。管理者から「職場に指導者がいない、若手が育成されない。」の声。若手は「悪くなったから辞めます。」落胆的な考えになっている。(東京)

II若手組合員からII

(阿部) 4月からユニオン建設に出向している。仕事はきつい、施工する側として言うべきことは言っていない。3年間頑張りたい。交流会は続けてほしい。いろいろな話を聞けるのは勉強になる。

(飯田) 職場は、上手く仕事が回っていない。点呼ギリギリに上がって来るのが当たり前。低賃金の改善を強く求めていきたい。

II工務協の在り方についてII

「各地協で開店休業は避けるべき。」「仲間を増やし継続していく。」「若手が負担にならない形で、我々が65歳満了まで支えながら、方向性を出していく必要がある。」など意見が出されました。議長から、「各地協の状況・経過を踏まえ、定期委員会において議長が判断していく。」事としました。

【議長集約】

交流会は、来年も開催して行きたい。JR・P会社問わず、要員不足は深刻であり、労働強化と健康破壊が拡大している。会社に問題提起し、国労の存在感を示そう。エルダー出向先の労働条件は劣悪であり、改善に向けて東本部と調整したい。

自分たちが出来る活動を強化し、若手世代と共に工務協運動の発展継承へ繋げて行こう。と集約しました。

交流会を受け入れて頂いた、仙台地協の皆さんにお礼申し上げます。ありがとうございました。